令和４年度　学　校　評　価　【　計画書・報告書　】

加賀市立三谷小学校　　校長　　平井　雅子　　印

＜学校教育ビジョン＞

１　学校教育目標
「夢や目標に向かって、主体的に学ぶ三谷っ子の育成」

２(１)目指す児童像
①目標達成のために自分に必要なことを考えて、粘り強く努力する子
②思いやりの気持ちをもち、認め合い高め合う子
③心身ともに健康な子
④郷土を愛し、家庭や地域の人々に感謝の気持ちをもつ子

(２)目指す学校像
①教師と児童、教師同士が目指す姿を共有し、共に育つ学校
②児童も教職員も安心して笑顔で過ごせる学校
③保護者や地域に信頼される学校

(３)目指す教師像
①協働して学び続け、共通実践を大切にする教師
②児童の安心と安全を第一に考えて行動する教師
③心身ともに健康で、笑顔で教育活動を推進する教師
④保護者や地域と連携して児童を育てる教師

３．今年度の重点事項
(１)豊かな心と健康な体を育成する教育の推進
(２)児童の学力向上と教師の授業力向上
(３)児童も教師も安心して過ごせる学校づくり
(４)家庭や地域との連携と郷土を愛する心の育成
(５)協働し、笑顔で教育活動を推進する教師集団づくり

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	評定結果（中間）	2学期以降の改善策	評定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	各教科の授業において、語彙力を高め、表現力を向上させることができるように授業改善を図る。	各授業において、音読を多く取り入れたり、国語の「言葉の広場」の語句を習得したりする。	教務主任	語彙力が十分でないため、発表したり作文したりするときに、同じ言葉を何度も使うなど表現力が不十分である。また、深く考えずに表現することもある。	【成果指標】 各教科の授業において語彙力をつける意識を高め、表現力アップにつなげる。	「学力向上1校1プラン」の「語彙力アップで、表現力アップ」による4つの検証項目中、達成できた項目が A　4つ　　B　3つ C　2つまたは1つ　D達成した項目なし	学力向上1校1プランの1学期・2学期の検証で判断する。	B	教師が授業でしっかり取り組み、語彙力の大切さを児童も意識することができ、4つの検証項目中、3つ達成できた。2学期は、「言葉の広場」の語彙を使って表現できるように取り組み、各教科の音読に、引き続き力を入れていきたい。	B	2学期も、教師は「言葉の広場」や音読の取組をしっかり行うことができた。しかし教師の問い返しによる表現力の向上が十分ではなかった。3学期は、授業公開で「問い返し」をする教科や場面を具体的に提案し、授業改善を図り、児童の語彙力・表現力を高めていきたい。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	みんなが過ごしやすく、児童同士が認め合い高め合える関係が築けるよう、「温かい言葉であふれる三谷小」を目指す。	みんなが過ごしやすくなる言葉を共有し、意識して使う場面を増やす。 児童会や行事と連携し、全校に伝えたり、目標に取り入れたりする。	生徒指導主事	普段から友達と温かく関わり合い、協力することができる児童が多い。授業中だけでなく休み時間等児童同士で関わる場面や行事などで異学年と関わり合う場面でも、みんなが過ごしやすくなる言葉を増やす。	【成果指標】 みんなが過ごしやすくなる言葉（挨拶・ふわふわ言葉・プラス言葉）を使うことができる。	みんなが過ごしやすくなる言葉（挨拶・ふわふわ言葉・プラス言葉）を、使うことができたと答える児童の上位回答の割合が、 A　100%　　B　90%以上 C　80%以上　D　80%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。	A	上位回答100%のうちA回答の児童が72%いた。全校集会や児童集会で呼びかけることで、各学級での取組と児童の意識向上に繋げることができた。2学期は校内だけでなく、地域での挨拶や放課後の遊び、オンラインゲームなどでの言葉遣いについて振り返り、さらなる意識向上を目指していく。	A	上位回答100%のうちA回答の児童が62%いた。遊びの場での言葉づかいが気になる場面もあるが、児童は限られた人数の中でみんなが楽しく過ごせるように関わり合っている。3学期は、日々の生活や行事で増やしたい言葉を具体的に共有し、全校が気持ちよく関わり合える場面を作っていく。
	生徒指導の3機能を生かした授業作りや行事、縦割り活動に取り組み、いじめ・不登校の未然防止を図る。	学期に1回のアンケートと面談により児童の実態把握を図り、児童が周りとの繋がりを実感し、よりよい人間関係を築けるよう「共感的人間関係」を意識した授業づくりや行事、縦割り活動を実践する。	生徒指導主事	少人数で仲良く関わり合っているが、限られた人間関係の中での関係作りや、自分も相手も気持ちよく関われる居場所作りに課題も見られる。授業だけでなく行事や縦割り活動を通して、安心して過ごせる場所や人間関係を増やす。	【努力指標】 児童が周りとの繋がりを実感し、よりよい人間関係を築けるよう「共感的人間関係」を意識した授業や行事、縦割り活動の実践を行う。	児童が周りとの繋がりを実感し、よりよい人間関係を築けまた、「共感的人間関係」を意識した授業や行事、縦割り活動の実践を行うことができたと答える教職員の上位回答の割合が、 A　100%　　B　90%以上 C　80%以上　D　80%未満	7月・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。	A	上位回答100%のうちA回答が67%であった。各教室での日々の学級指導・集団作りを2学期も継続して行う。また行事を通して、学年を超えて繋がる機会をつくり、子ども同士が互いを認め合う姿が増えるよう取り組んでいく。	A	上位回答100%のうちA回答が50%であった。運動会やマラソン大会では、上級生が下級生に優しく関わったり応援し合ったりして、全校が前向きな気持ちで関わり合う姿が見られた。3学期は、進級・進学に向けて、よりよい人間関係を築き気持ちよく次の学年へ進んでいけるよう教員研修を行い、児童の実態に応じて学級での実践に繋げていく。
③キャリア教育・進路指導	現在の自分より少し高めの目標を設定し、その達成に向けて前向きに努力し、やり遂げた満足感を味わわせることで自己肯定感を高め、将来の夢や希望をふくらませる。	各種行事や取組等において、各学年や個々人の実態に応じて、"今よりも少し上"を意識した目標を持たせ、目標が達成できるようにする。	キャリア教育担当	どのような行事や取組においても、全体的に適切な目標を設定し、努力する姿がみられる。引き続き、"現在の自分より少し高めの目標"を設定し、その達成に向けて努力できるように支援していく。	【努力目標】各種行事や取組等において、児童が"現在よりも少し高め"を意識した目標設定をし、その達成に向けて努力することができる。	各種行事や取組等において、児童が目標を立てて努力し、「記録が伸びた・成長した・目標達成に向けてがんばれた」と自己評価で上位回答した児童・教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　　D　60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。	A	児童・教職員アンケートともに、上位回答が100%で、そのうちA回答が児童69%・教職員67%という結果であった。2学期には、多くの各種行事が予定されているので、"現在の自分よりも少し高めの目標"を設定し、その達成に向けて努力できるよう支援・指導していく。	A	上位回答は100%で、そのうちA回答が児童62%・教職員67%という結果であり、高い水準で推移している。2学期には体育行事や他校との交流等で、それぞれの目標を持ち、それに向けて一生懸命がんばる姿が多く見られた。今後も児童の思いを大切にしながら、目標設定やその実現に向けて支援していきたい。
④保健管理	児童の発達段階に応じて、柔軟性の向上を中心に、バランスの良い体力向上を目指す。	器械運動領域だけでなく、準備体操やウォーミングアップ等で柔軟性を高める動きを取り入れていく。	体育担当	全体的にバランスよく体力の向上が図られているが、柔軟性において、全体的に弱い傾向がみられる。	【成果指標】 体力テストにおいて、柔軟性の6項目中4項目以上、全48項目中38項目以上で県平均記録を上回る。	体力テストにおいて、柔軟性6項目中5項目、全48項目中42項目において、R3年度の県平均を上回る結果であった。昨年度、本校で弱いとされた柔軟性も改善され、高いレベルでバランスよく体力向上が図れている。2学期以降、県平均を下回った部分に焦点をあて、改善を図っていく。 体力テストにおいて、柔軟性6項目中5項目、全48項目中42項目において、R3年度の県平均を上回る結果であった。昨年度、本校で弱いとされた柔軟性も改善され、高いレベルでバランスよく体力向上が図れている。2学期以降、県平均を下回った部分に焦点をあて、改善を図っていく。 A　4項目かつ38項目以上 B　3項目かつ34項目以上 C　2項目かつ29項目以上 D　1項目かつ24項目未満	体力テストを実施し、体力分析を行う。	A	春の体力テストにおいて、柔軟性6項目中6項目、全48項目中44項目において、R3年度の県平均を上回る結果であり、春の体力テストに比べても向上が見られた。前回に引き続き、本校で弱いとされた柔軟性もさらに改善され、高いレベルでバランスよく体力向上が図れている。2学期以降、県平均を下回った部分に焦点をあて、改善を図っていく。	A	秋の体力テストにおいて、柔軟性6項目中6項目、全48項目中44項目において、R3年度の県平均を上回る結果であり、春の体力テストに比べても向上が見られた。前回に引き続き、本校で弱いとされた柔軟性もさらに改善され、高いレベルでバランスよく体力向上が図れている。2学期以降、県平均を下回った部分に焦点をあて、改善を図っていく。
	心身の健康保持に関心を持たせ、メディアコントロールの意識向上に向けた指導の充実を図る。	児童委員会活動を中心に、メディア使用が及ぼす心身の健康への影響とメディアとの上手な付き合い方について関心を持てるよう働きかける。	養護教諭	昨年度の取り組みから、多くの児童がメディアの使用時間を見直すことができた一方で、継続することが難しい児童もみられる。また、タブレット使用時の姿勢が悪い児童がみられ、視力がB以下の児童や脊柱側弯症・姿勢異常と診断される児童も多い。	【成果指標】 健康に留意したメディア使用を心掛けることができる。	「健康に気をつけてメディアを使用することができた」と答えた児童の割合が、 A　90%以上　　B　80%以上 C　70%以上　　D　70%未満	7月・12月に児童対象のアンケートを実施する。	A	上位回答が100%でA回答が52%だった。1・2年生は全員A回答だが、学年が上がるにつれてB回答が増える傾向がある。児童健康委員会の取り組みによって、多くの児童が健康を意識してメディアを使うことができた。しかし、平日のメディア利用時間が2時間を超える児童が45%いるため、今後も継続して取り組みを行っていく。	A	上位回答が93%と下がった。児童健康委員会による取組から、1学期よりもメディアとのつきあい方を意識できた児童が増加した一方で、高学年の約40%では使用時間が増えている。今後も継続して児童に向けた指導や呼びかけを行っていくとともに、家庭に向けたルール作りや子どもとの関わり方等の情報を発信していきたい。
⑤安全管理	防災の知識や意識を高め,児童が自ら考え,その場に必要なより良い行動ができることを目指す。	訓練の内容や方法を工夫し事前指導で訓練の目当てをもたせ,訓練に臨む。事後指導の中に家庭との連携を図り学びを深める取組も行う。	教頭	昨年度、児童は訓練をまじめに行い、めあてを意識した行動ができたが、災害への意識を継続させるために、今年度も訓練内容や方法を工夫する必要がある。	【努力目標】 訓練の内容や方法を工夫し、児童とめあてを共有して訓練に臨む。	訓練の内容や方法を工夫し、児童とめあてを共有して訓練に臨むことができたと答える教職員の上位回答の割合が A100%　　B80% C60%　　D60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	A	地震対応・避難訓練では、地震発生時の場所を学年ごとに設定し、その場に応じた身の守り方を事前に学習し訓練に臨んだ。訓練後は、家族と家での地震発生時の約束を作り、地震への対応について学習することができた。今後の火災避難訓練でも、目当てを明確にし事前指導を訓練に生かしていく。	A	上位回答100%でA回答50%であった。火災避難訓練は休憩時の出火を想定し、児童自ら自分のいる場所から安全な避難経路を考え行動することができた。また、職員がどのように役割分担し対応すべきかを考える機会にもなった。今後も各種訓練の内容や方法を工夫して取り組んでいきたい。
⑥特別支援教育	気になる児童について、児童の困り感や特性を共通理解し、全職員で支援策を検討・共有・見直しをし、個に応じた支援体制を整える。	児童理解の会、特別支援校内委員会を定期的に実施し、支援を必要とする児童の理解を深め、個に応じた支援策を検討したり見直したりし、共有を図る。	特別支援教育コーディネーター	気になる児童について、毎月の児童理解の会で共通理解し、全職員で支援策を共有している。特に、学習支援が必要な児童については、情報交換をし、管理職・支援員・養教と連携し支援体制を整えている。	【努力指標】 個に応じた支援をするために、職員間で児童への共通理解を深め、支援策を検討したり見直したりする。	個に応じた支援をするために、児童への共通理解を深め支援策を検討した児童したりできた教職員の上位回答の割合が、 A　100%　　B　90%以上 C　80%以上　D　80%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	A	上位回答が100%でA回答は33%であった。毎月の児童理解の会では気になる児童について、学期の始めと終わりには支援シートの児童について共通理解している。気になる児童について職員で情報交換することを通して、よさや成長に気づき課題を明確にすることでよりよい支援に繋げていく。	A	上位回答が100%でA回答は50%であった。児童の実態に合わせて支援割を見直し、学習支援が必要な児童が安心して学ぶことができるような環境づくりに努めた。次年度に向けて、支援シートを作成している児童への支援を繋げよりよい環境づくりができるよう、現状の共通理解と支援策の検討を行う。
⑦組織運営・業務改善	職員同士の情報交換や業務の協働を推進することにより、業務の効率化とゆとりある教育活動を行うことを目指す。	補習、授業準備、プリント印刷、丸付け、授業支援、環境整備等について 教育支援員や校務員、級外職員等に支援を依頼し、業務を軽減する。	教頭	昨年度よりも学級担任が1名増え、教材準備等は少し軽減されるが、全体的には業務の平準化・効率化が必要である。	【努力指標】 支援を頼み、業務を少しでも減らすことで負担の軽減に努める。	支援を頼むことで業務を減らし軽減に努めることができたと答える教職員の上位回答の割合が、 A80%　　B70% C60%　　D60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	B	上位回答が100%で90%であったがA回答は30%と下がった。要因として2学期は大きな行事が多く業務を減らすことが難しかったことも考えられる。教育支援員には授業支援や丸付け、印刷等を依頼している。今後も必要な支援を依頼し、業務軽減をめざしていきたい。	B	上位回答が100%であったがA回答は30%と下がった。要因として2学期は大きな行事が多く業務を減らすことが難しかったことも考えられる。教育支援員には授業支援や丸付け、印刷等を依頼している。今後も必要な支援を依頼し、業務軽減をめざしていきたい。
⑧研修	国語科を中心として、語彙力の向上を図りながら、主体的に学び、「話す力・聞く力・話し合う力」をバランスよく育成する。	国語科の「話すこと・聞くこと」領域において、語彙力向上の取組を行いつつ、指導事項の確実な習得と活用を図る。	研究主任	「話す力・聞く力・話し合う力」については、全体的に高まってきている。昨年度の課題の改善を図りながら、さらなる力の向上やその活用が図られるような研究体制を構築していく。	【成果指標】 学習指導要領に示された「話すこと・聞くこと」領域の指導事項に準じた「話す・聞く・話し合う力」アンケートを実施し、定着率をみる。	「話す・聞く・話し合う力」アンケートにおいて上位回答の児童・教職員の割合が、 A　80%以上　　B70%以上 C　60%以上　　D60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。	B	「話す・聞く・話し合う力」アンケートにおいて、児童86%教職員83%の上位回答を得た。しかし、A回答とB回答の割合がおよそ半々なので、まだまだ改善の余地がある。これまでの研究実践で培ってきた「話す・聞く・話し合う力」を土台に、さらなる活用や発展、向上を目指していく。	A	「話す・聞く・話し合う力」アンケートで、児童87%教職員85%の上位回答を得、学校全体として「話す力・聞く力・話し合う力」が向上したといえる。また、付けた力を様々な場面に活用する姿も多く見られた。来年度に向けて、個別最適・協働的・自由進度学習など、新たな学習形態、授業改善を目指した研修計画を積極的に推進していきたい。
⑨保護者，地域との連携	地域の良さを生かした実践を通して、児童の地域への感謝や誇り,郷土愛の心を育てる。	地域人材や地域教材を生かした授業実践を行い、児童の地域から学ぶ機会をもつ。	教頭	三谷の特色として自然や農業について学ぶ環境が整っており、地域の方が大変協力的である。コロナ禍で活動に制限は生じることが考えられるが、状況をみて規模や方法を工夫し実施する。	【成果目標】 児童が、授業で地域の人から学ぶ機会をもち、三谷のよさを知ることができる。	授業で地域の人から学び、三谷のよさを知ることができたと答える児童・職員の上位回答割合が、 A90%　　B80% C60%　　D60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。	A	アンケート結果は児童・職員共に上位回答100%であった。地域の人から学ぶことで、三谷の新たな発見をすることができた。2学期も、地域の方から学ぶ機会をもち、児童の三谷への興味関心を高め、よさを感じられるようにしていく。	A	アンケート結果は児童・職員共に上位回答100%で、2学期も地域の方から学ぶ機会がもてた。生活科や総合的な学習で、町の方に教えていただいたり、一緒に体験したりできた。地域の方にお会いして学ぶ機会は児童にとって大変貴重で今後も継続していきたい。
⑩教育環境整備	校舎内外の環境整備・環境美化に努め,安全で教育効果を高める教育環境の充実を図る。	日常的に危険に対する高い危機意識をもち、2か月に1回の安全点検を行う。	教頭	日々の情報交換と定期点検により、問題個所について把握し、迅速に対応している。	【努力目標】 危険に対する意識をもち,日々の情報交換や定期点検に努め、迅速に対応することができる。	教育環境に関する情報交換や定期点検に努め、迅速に対応できたと答える教職員の上位回答割合が A100%　　B80% C60%　　D60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	A	上位回答100%でA回答60%であった。2か月に1回の安全点検を行った結果、大きな問題個所は無く、すぐに対応して改善できるものが多かった。今後も、日頃から危険箇所や環境整備について留意して問題に気づくようにしていきたい。	A	1学期同様上位回答100%でA回答60%であった。2学期も大きな問題はなく環境整備を行うことができた。また夏休みに耐震対策を確認し、改善が必要な箇所の対応ができた。今後も定期的な点検に併せて日々の環境整備に努めていく。
学校関係者評価	・道徳の授業参観から、教師の言葉かけで児童が自分の考えを表現する姿や、自分はどうしたらよいのかと考える姿に、子ども達の将来につながる授業だと思った。 ・1，2年生から授業にパソコンを活用し、ICT教育が実践されているのがよい。 ・語彙力がまだ不十分という評価だが、授業の様子を見る限り十分だと思う。 ・今求められる教育は「知恵をもち、自分で問題をつくり、自分で解決する力を育てること」で、そのためにコミュニケーション力が大事である。その点で三谷小学校の児童は、自分の意見を表現し、あたたかい雰囲気で話し合える少人数の良さがあってよい。 ・コミュニティ・スクールについて、三谷小学校にはとても有意義なものになるのではないかと思う。										